



新素材「溶剤系 特殊ポリオレフィンコート剤」の市場開発を開始

自己密着性・ガス透過性を発現

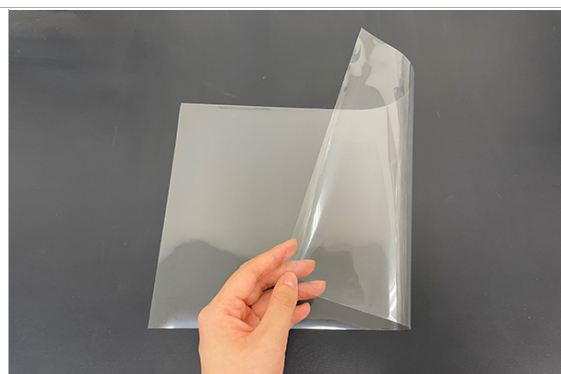
三井化学株式会社

2021年10月14日

三井化学株式会社（所在：東京都港区、代表取締役社長：橋本修）は、自己密着性・ガス透過性を発現できる新素材「溶剤系 特殊ポリオレフィンコート剤」（開発品）の市場開発を開始しました。10月28日から開催予定の「ものづくりパートナーフォーラム大阪2021」ほか、展示会への出展を予定していますので、ぜひご来場ください。



特殊ポリオレフィンコート剤



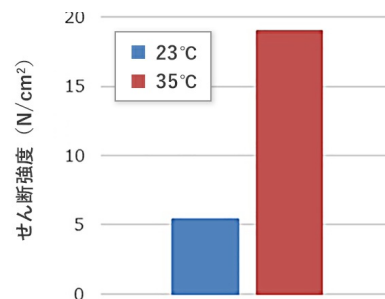
本剤を塗布したPMPフィルム

自己密着性

引張せん断強度
試験方法：JIS L 3416

--	--

本コート剤は、基材に塗布して乾燥成膜後、コート面同士を重ねて人の力で数秒押すと、コート剤同士がくっつく「自己密着性」を有しています。また温度をかけるほど、より密着する特性があります。これにより、衣料への用途展開の可能性を検討しています。従来の面ファスナーでは困難であった歪曲面への適用や縫製の手間、脱着時の異音の解消に加えて、素材の質感を活かしたデザイン設計に貢献できると考えています。

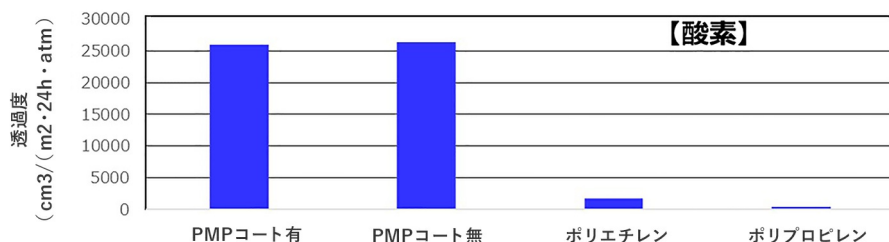
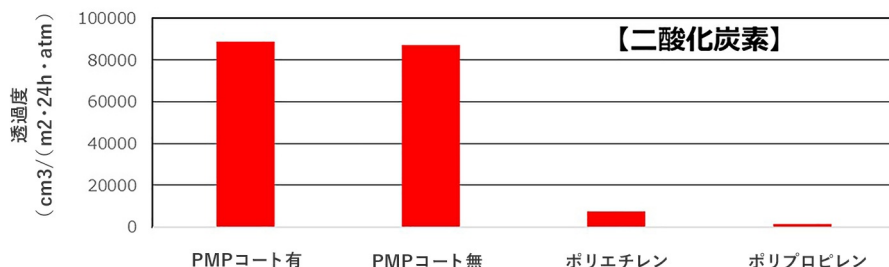


ガス透過性

本コート剤使用により、PMP（ポリメチルペンテン）のガス透過性を維持しつつ、ヒートシール性を付加できます。

PMPフィルムと本コート剤の組合せは、一般のフィルム同様、液体や菌などは通さず、気体のみを透過します。その上で特定のガスを選択的に高く透過するため、ヒートシールパッケージにも適しています。そのため、細胞培養キットの保護用途、医療器具のパッケージ、特定ガスの分離膜といった産業分野等の用途を考えています。

PMPフィルム (50 μ m) のガス透過性
コート剤膜厚：3 μ m



その他

本コート剤は、低温シール性・撥水離型性等の機能も発現します。

(注意事項) 現時点では、本コート剤はあくまで市場開発段階であり、特定分野での使用に必要な許可などは取得していません。

展示会出展予定

展示会名	場所	開催日
ものづくり パートナーフォーラム大阪2021	梅田ハービスホール	2021年10月28日(木)
高機能プラスチック展	幕張メッセ	2021年12月8日(水)～10日(金)
コンバーティングテクノロジー総合展2022 - 新機能性材料展 -	東京ビッグサイト	2022年1月26日(水)～28日(金)

※ 今後の新型コロナウイルスの感染状況により、出展を取りやめる可能性がございます。

以上